

激しい反発、市外からも

地域社会に生じた亀裂

がれきの行方

静岡・島田の選択

〈上〉



震災がれき受け入れに反対する静岡県島田市の住民ら＝2月15日、島田市役所で

丸1年がたっても震災と津波の傷が癒えない被災地で、復興の最大の障害とも指摘される震災がれき。放射性物質に対する不安が広域処理への協力を妨げる地域も目立つ中で、静岡県島田市はなぜ受け入れに踏み切れたのか。背景を探る。

「1丁でも多く受け入れ」の復興が進展することを心たい。一刻も早く東北地方から願う。静岡県島田市

の桜井勝郎市長は15日、何度も繰り返し返してきた思いを口に、安堵の表情を浮かべた。

昨年12月に受け入れの意向を表明して3カ月、市外の団体が反対活動に訪れた。説明会で住民が激しく反発する事態もあり、住民に線量計を提供する「ガラス張り」の試験焼却も実施した。

昨年12月から今年1月、ごみ焼却施設や最終処分場がある地区などで開いた住民説明会は6回に及ぶ。大勢が押し寄せ、立ったまま説明を聞く子ども連れの親もいた。

賛成の発言はほとんどなく「子どもの将来のために受け入れないで」「茶の風評被害が心配」と母親や茶農家が猛反発。終了予定時間を大幅に過ぎても質問は続いた。

平穏な住民の生活に少しずつ亀裂が生じる。「ごみ出しの時、近所のお年寄り

があいさつしてくれなくなった」。反対の署名集めに奔走した女性は寂しそうにこぼした。

溝を少しでも埋めるため、焼却施設のある地区の自治会長が発案し、慎重派の地元医師が講師を務め放射線物質に関する勉強会を開いたことも。住民の質問や要望をまとめて提出したが、市がよこしたのは「中身の少ない形だけの回答」(医師)。歩み寄りは失敗

した。

市外からは、環境問題に詳しい活動家や、脱原発を掲げる団体が頻繁に島田市を訪れた。俳優山本太郎さんも、子を持つ母親らを前に受け入れ反対を訴えた。試験焼却のがれきが島田に市に搬入された2月15日、短文投稿サイト「ツイッタ」などを通じ市内外の住民約200人が市役所に集結。「リコール」市長を出せ」との怒号が飛び交

い、市役所玄関を数時間占拠した。

受け入れ反対の市議は「本来の趣旨と離れ、混乱するのは良くない」。市民運動の経験がない一部の女性に「こんなはずじゃなかった」と距離を置く結果となった。

試験焼却を経て、自治会長連合会は「大部分の住民の賛成を得た」と受け入れの不安は払拭できていると主張する。しかし「住民が、現状への理解が進み「お茶の得意先である東北を助けよう」との声も広まった。

取り時期と重なる可能性があるが、ある茶業関係者は「受け入れを遅らせて誤解されるなら、すぐに受け入れたい」と話した。